

情報教育初心者教員の交流学習に対する理解をうながす交流コミュニティの階層化
 Community Segmentation to Understand Collaborative School Networking
 for Novice Teachers at ICT Education

笹原克彦
 Katsuhiko SASAHARA

富山市立寒江小学校
 SAMUE Elementaly School,
 Toyama

高橋 純
 Jun TAKAHASHI

富山大学教育学部
 Faculty of Education,
 TOYAMA Univ.

堀田龍也
 Tatsuya HORITA

静岡大学情報学部
 Faculty of Information,
 SHIZUOKA Univ.

「総合的な学習の時間」の導入段階に当たる小学校中学年において、情報教育の初期指導を目的とした交流学習を実践した。その過程に関わった情報教育初心者教員の交流学習に対する意識の高まりを意図した、交流グループの階層化について考察する。

キーワード 情報教育，交流学習，実践コミュニティ

1 はじめに

2002 年度から新しい学習指導要領が完全実施され、総合的な学習の時間が普及期に入ると共に、その基礎となる情報活用の実践力の高まりはますます重視されてきている。中でも交流学習を進めることによって、さまざまな実践の可能性が広がると共に、情報活用の実践力の高まりが期待できる。そこで、子供の調べ活動を支援するリンク集や、学習の成果を公開するための Web サイトを開設し、交流学習を進めることとした。

2 問題

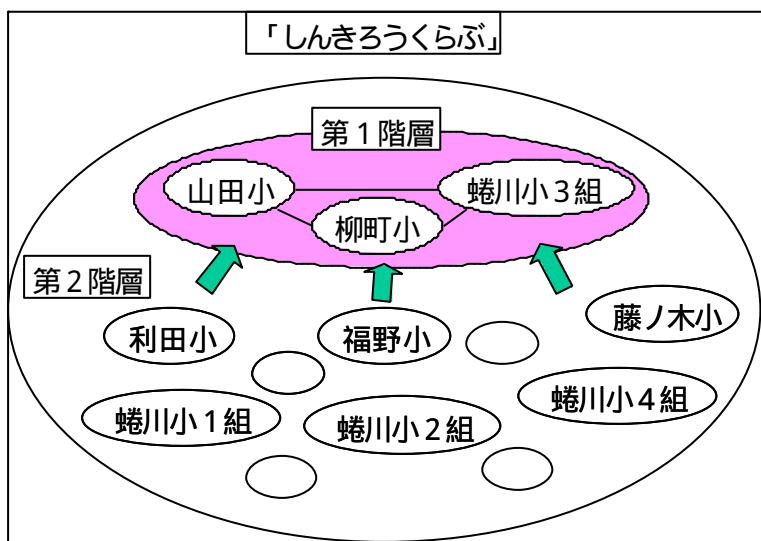
しかし、これから情報教育に取り組もうと

する教員の多くにとって、交流学習はどこから始めればよいか戸惑いを感じる事が予想される。また、例えすぐには実践できないにしても、どんな実践が可能かをしておくことで、やがては実践することができる。ところが、全員が観察者になってしまえば、実践の内容や方法等を理解することはできない。そこで、交流のコミュニティを階層化して実践を見せるグループを作り、先行して実践することが有効だと考えられる。

本論では、情報教育初心者教員を含めた学校間交流コミュニティの組織を階層化し [図 1]、その中で交流学習の典型的な実践を示すことによって、コミュニティに参加している情報教育初心者教員の交流学習に対する意識がどのように高まるかについて論じる。

3 交流コミュニティの組織

本実践でのコミュニティは、地域理解を深めることを目的とし、その学習の成果を Web 化して共有するサイト「しんきろうくらぶ」(<http://sasatto.net/sinkirou/>) に情報発信することを交流の前提としたプロジェクトへの参加学級によって構成される。コミュニティは交流の深度によって、以下の 2 階層に分割される。



[図 1] 交流コミュニティの階層図

第1階層：中核となる交流グループ

都市部と山間部に位置し、学校規模も全く違うなど、環境に大きな隔りがある3学級から構成されており、典型的な交流学習を実践することが可能である。また3学級の担任は、交流学習の経験者1名、初めて体験する教師2名で構成されている。初心者教員が交流学習に取り組む際に考えるべきことや子供に対して支援することなどを、実践の過程で明らかにできるので、第2階層の初心者教員に対して有益な情報を提供できる。

第2階層：できる範囲で交流するグループ

情報教育初心者教員が担任する学級を含めた14学級で構成される。自分たちの学習の成果をまとめ、交流サイトに発信することを原則とするが、特定の学級を交流対象とするわけではなく、サイトに設けられたリンク集の利用など、各学級の実態に合わせた参加の仕方に関わる。

第1階層グループは、Webによる情報発信ばかりではなく、テレビ会議システムや、電子メールなどさまざまなメディアを活用し、自分たちの学習内容を深化させながら実践する。第1階層の交流の打ち合わせは全員が登録されたメーリングリスト上で行う。第2階層メンバーにも、交流することによって高まりを期待する子供の力や、具体的な交流の内容が読みとれるように記述に配慮する。

第2階層は、メーリングリスト上で第1階

[表1]これまで交流学習に取り組んだ経験があるか

全くない	2
見たことはある	4
経験がある	4
合計(人)	10

[表2]今後、交流学習を実践してみたいか

ぜひしてみたい	5
機会があればしてみたい	5
あまりしたくない	0
行うつもりはない	0
合計(人)	10

層の交流の過程を見たり、意見を交換したりする。また、必要に応じて交流へ参加したり、独自に交流を進めたりする。

4 考察

メンバー全員を対象に、実践に向けての考え方や具体的な進め方についてのミーティングを実施した。実践の進捗状況やWeb更新の連絡等は、全員が登録されるメーリングリスト上で行われ、8カ月で約300通程度のメールが交換された。

実践後、全員に対してアンケートを実施したところ、10名からの回答があった。

回答者の6割は、これまで、交流学習の経験が全くないか、見た経験はあっても実践したことがなかった[表1]。しかし、コミュニティに参加することによって、全回答者が、今後は交流学習を実践したいと感じるようになった。特にこれまで一度も経験のなかったメンバーの一人は、今後もぜひ実践したいという回答をしていた[表2]。

また、今回のコミュニティ参加で得られた知見を問うたところ、参加した初心者教員からは、以下のような回答が得られた。

- ・このような学習ができるのが良かったことが一番の収穫だった。(第2階層メンバー)
- ・他の学級の取り組みを参考にできるのがよい。(第2階層メンバー)
- ・子供の活動が活発になったり主体的になったりすることが分かった。そうなる、スキルや能力が効果的に高まることも体験できた。(第1階層メンバー)

交流学習のコミュニティを2つの階層にわけ、交流学習の経験が少ない教員に対して、典型的な交流学習のスタイルを見せることによって、教員の交流学習に対する理解が深まり、自分も実践してみようとする意欲が高まった。

なお、本研究は、上月情報教育財団の支援を受けている。ここに記して感謝する。

[参考文献]

[1] 堀田龍也(2001):「情報教育の実践コミュニティの運営モデル」日本教育工学第17回全国大会,pp.417-418